

## DSM-5 の訳語に関する訳者の先生方からのご回答

2015年9月11日  
株式会社医学書院 医学書籍編集部  
松本 哲

先日は DSM-5 の訳語につきまして貴重なご指摘を頂戴いたしましてありがとうございました。ご指摘につきまして、訳者の先生方よりご回答いただきました（青字部分）。ご確認いただけますと幸甚に存じます。

### ① P49・診断基準 A(2)

「まとまりのわるい言語的，非言語的コミュニケーション」とありますが、「音声言語的コミュニケーションと非音声言語的コミュニケーションとがうまく統合されていないこと」ではないでしょうか？

※原文：Deficits in nonverbal communicative behaviors used for social interaction, ranging, for example, from poorly integrated verbal and nonverbal communication  
⇒「統合の悪い言語的と非言語的コミュニケーション」に変更いたします

### ② 同・診断基準 B(4)

「特定の音または触感に逆の反応をする」とありますが、「拒否反応」ではないでしょうか？

※原文：adverse response to specific sounds or textures  
⇒このままとさせていただきます

### ③ P52・「診断的特徴」の3～4行目

「機能的な障害が明らかとなる局面は、個々の特性や環境によって異なるであろう」とありますが、「機能的な障害が明らかとなる時期は、本人の特性や環境によって異なるであろう」のほうがよいのではないのでしょうか？ 直前の文を踏まえると「局面」より「時期」のほうがよいのでは？

※原文：The stage at which functional impairment becomes obvious will vary according to characteristics of the individual and his or her environment.  
⇒「局面」→「時期」に、「個々の」→「その人の」に変更いたします

### ④ 同・「診断的特徴」の12行目

「臨床医の観察」とありますが、「臨床家の観察」のほうがよいのではないのでしょうか？

※原文：clinician's observations

⇒ご指摘の通り「臨床家」に変更いたします

⑤ 同・「診断的特徴」の21行目

「対人的相互反応の模倣」とありますが、「対人的相互反応の自発」でしょうか（原文の initiation のすぐ下に imitation があるので、誤読されたのでは？）

※原文：initiation of social interaction

⇒「対人的相互反応の開始」に変更いたします

⑥ 同・下から5行目

「自然に表現豊かな身振りを用いる」とありますが「自発的に身振りで表現する」ではないでしょうか？

※原文：use expressive gestures spontaneously

⇒ご指摘の通り「自発的に身振りで表現する」に変更いたします

⑦ 同・下から4行目

「会話に伴う非言語的コミュニケーションを会話と協調させる」とありますが、「非音声言語的コミュニケーションと音声言語とを統合する」ではないでしょうか（これは誤訳とまでは言えないでしょうが、この箇所以外にも“nonverbal communication”を非言語的コミュニケーションと訳されていますが、たとえばサイン言語は言語ですが、nonverbal ですので、非音声言語的とするほうが正確ではないでしょうか）？

※原文：coordinating nonverbal communication with speech

⇒このままとさせていただきます。現訳で十分意味は伝わりますし、コミュニケーションの分類において言語 or 非言語と音声 or 非音声は別視点からの分類であり、ここではあくまで言語(verbal) or 非言語(nonverbal)の視点で良いと考えられます。

⑧ 同・下から2行目

「個人的な状況下では」とありますが、「一つ一つの障害は」ではないでしょうか？

※原文：within individual modes

⇒この部分は先生のご指摘を踏まえたうえで、「個々の（コミュニケーション）様式についてはほんの微細なものかもしれないが」に変更いたします

⑨ P53・下から20行目

「同じ場所を行ったり来たりする」とありますが、「周辺や縁に沿って歩く」ではないでしょうか？

※原文： pacing a perimeter

⇒「同じ場所をまわり続ける」に変更いたします。“pace”には「行ったり来たりする」と「～に沿って歩く」の両方の意味があり、先生のご指摘の通りでも違和感はないのですが、原文でわざわざ“perimeter”と言っているのでまわりという言葉を用います

⑩ 同・下から 13 行目

「行きすぎた食事制限など」とありますが、「偏食」とは違うのでしょうか？ 食事制限は通常支援者側の行為にとれます。

※原文：Extreme reaction to or rituals involving taste, smell, texture, or appearance of food or excessive food restrictions are common and may be a presenting feature of autism spectrum disorder.

⇒このままとさせていただきます。「偏食」を意識していましたが、なるべく意識はしない方針で敢えて「食事制限」にしました

⑪ 同・下から 11 行目

「公共の場で」とありますが、「人前で」のほうがよいのではないのでしょうか（「公共」では仰々しいのでは？ 別の箇所の in public は「人前で」と訳されています）？

※原文：Many adults with autism spectrum disorder without intellectual or language disabilities learn to suppress repetitive behavior in public.

⇒ご指摘の通り「人前で」に変更いたします。

⑫ 同・下から 1 行目～P54・2 行目

「養育者への問診、質問紙、および診察医の観察を含む優れた心理測定的特性をもつ標準化された行動学的診断ツールが利用可能であり、それにより縦断的かつ臨床医間での診断の信頼性を向上させることが可能となる」とありますが、「診察医」「臨床医」はいずれも「臨床家」とするのがよいのではないのでしょうか？

※原文：Standardized behavioral diagnostic instruments with good psychometric properties, including caregiver interviews, questionnaires and clinician observation measures, are available and can improve reliability of diagnosis over time and across clinicians.

⇒ご指摘の通り「臨床家」に変更いたします

⑬ P54・「診断を支持する関連特徴」の 1 行目

「話し方が遅い」とありますが、「ことばが遅い」ではないのでしょうか？

※原文：slow to talk

⇒ご指摘の通り「ことばが遅い」に変更いたします

⑭ 同・「診断を支持する関連特徴」の5行目

「秩序破壊的/挑発的な行動」とありますが、「秩序破壊的/対応困難な行動」のほうがよいのではないのでしょうか（こういう場合の“challenge”は「挑発」「挑戦」とすべきではないと思います）？

※原文：disruptive/challenging behaviors

⇒このままとさせていただきます

⑮ 同・「診断を支持する関連特徴」の8行目

「中間動作」とありますが、「動作途中で」のほうがよいのではないのでしょうか？

※原文：slowing and "freezing" mid-action

⇒この部分は先生のご指摘を踏まえたうえで、「動作途中で緩慢になる、“立ちすくむ”」に変更いたします

⑯ 同・「診断を支持する関連特徴」の9～10行目

「姿勢保持」とありますが、「常同姿勢」ではないのでしょうか？

※原文：posturing

⇒このままとさせていただきます

⑰ 同・下から8行目

「自閉スペクトラム症に対して有用な“警告”となるかもしれない」とありますが、「自閉スペクトラム症についての有用な“警告”となるかもしれない」ではないのでしょうか？

※原文：Such losses are rare in other disorders and may be a useful "red flag" for autism spectrum disorder.

⇒このままとさせていただきます

⑱ P55・上から22行目

「臨床的な観察によって現時点で診断基準を満たしている場合、幼小児期に良好な社会的およびコミュニケーション技能の証拠がなければ、自閉スペクトラム症の診断がなされるかもしれない」とありますが、下記のほうがわかりやすいのではないのでしょうか？

↓

「児童期に対人スキルおよびコミュニケーション・スキルの良好だったという証拠がない場合、臨床的な観察によって現時点で診断基準を満たしていれば、自閉スペクトラム症と診断してもよい」

※原文：Where clinical observation suggests criteria are currently met, autism spectrum disorder may be diagnosed, provided there is no evidence of good social an communication skills in childhood.

⇒このままとさせていただきます

⑱ P57・上から9行目

「鑑別診断が負担となる」とありますが、「鑑別診断は難しい」ではないでしょうか？

※原文：Individuals with intellectual disability who have not developed language or symbolic skills also present a challenge for differential diagnosis

⇒先生のご指摘を踏まえたうえで、「鑑別診断における難題となる」に変更いたします

⑳ 同・「統合失調症」の4行目

「しかし臨床医は、自閉スペクトラム症をもつ人が、統合失調症の重要な特徴に関する質問だと解釈する場合、それが具体的である可能性を考慮しなければならない」とありますが、下記のほうがよいのではないのでしょうか？

↓

「しかし臨床家は、自閉スペクトラム症をもつ人が、統合失調症の重要な特徴に関する質問を、具体的に[字義通りに]解釈する可能性があることを考慮しなければならない」

※原文：However, clinicians must take into account the potential for individuals with autism spectrum disorder to be concrete in their interpretation of questions regarding the key features of schizophrenia

⇒“clinician”はご指摘のとおり「臨床家」に変更いたします。後半も先生のご指摘を踏まえたうえで「質問を具体的に解釈する可能性があることを」に変更いたします

21 同・「併存症」の3行目

「診断基準の一部となっている精神症状」とありますが、「診断基準の一部ではない精神症状」ではないのでしょうか？

※原文：psychiatric symptoms that do not form part of the diagnostic criteria

⇒ご指摘の通り「一部ではない」に変更いたします

22 同・「併存症」の8行目

「観察不能の徴候」とありますが、「観察可能な徴候」ではないのでしょうか？

※原文：observable signs

⇒ご指摘の通り「観察可能な」に変更いたします

以上です。